

## 令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

## 芸術文化団体の概要

ふりがな	こうえきしゃだんほうじん らくごげいじゅつきょうかい	団体ウェブサイトURL	
制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会	<a href="https://www.geikyo.com/index.php">https://www.geikyo.com/index.php</a>	
代表者職・氏名	会長 田ノ下雄二		
制作団体所在地	〒 160-0023	最寄り駅(バス停)	西新宿駅
	東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F		
電話番号	03-5909-3080		
ふりがな	こうえきしゃだんほうじん らくごげいじゅつきょうかい	団体ウェブサイトURL	
公演団体名	公益社団法人 落語芸術協会	<a href="https://www.geikyo.com/index.php">https://www.geikyo.com/index.php</a>	
代表者職・氏名	会長 田ノ下雄二		
公演団体所在地	〒 160-0023	最寄り駅(バス停)	西新宿駅
	東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F		
制作団体 設立年月	昭和5年(1930年) 10月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事(会長)/春風亭昇太 代表理事(副会長)/春風亭柳橋 理事/三笑亭夢太郎 他13名 常任理事(事務局長)/田澤祐一 監事/桂歌助 他2名	団体構成員:235名 主な構成員:春風亭昇太・春風亭柳橋・桂米丸・三遊亭遊三・春風亭小柳枝・桂米助・三遊亭小遊三・ナイツ・宮田陽昇 加入条件:落語を専門の業とするもので3年以上の経験を有する者、および落語以外の寄席芸能実演家でこの法人の目的に賛同して入会した者。	
事務体制(専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者置く	本事業担当者名	武田史子
経理処理等の監査担当の有無	有	経理責任者名	田澤祐一

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和05年 会長春風亭柳橋(先々代)、副会長柳家金語楼が日本芸術協会を設立。  昭和09年 柳亭左楽が会長を務める落語睦会を合同する。その後桂小文治(先代)が副会長となる。  昭和49年 古今亭今輔(先代)が会長に就任。  昭和51年 桂米丸が会長に春風亭柳昇が副会長に就任。  昭和52年 文化庁より社団法人の認可を受け、社団法人落語芸術協会と改称。  平成11年 桂文治(先代)が会長、桂歌丸が副会長に就任。  平成16年 桂歌丸が会長、三遊亭小遊三が副会長に就任。  平成23年 4月 1日 公益社団法人の認可が下り、公益社団法人落語芸術協会と改称。  平成30年 7月 2日 会長桂歌丸が死去。平成30年6月総会にて、三遊亭小遊三の会長代理兼任が決まっていたため、代表理事として三遊亭小遊三が会長代行を務めた。  平成元年 6月27日 春風亭昇太が会長に、春風亭柳橋が副会長に就任。現在に至る。</p>	
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>台東区の小学校約20校を対象に、浅草演芸ホールにて平成16年から毎年数十日公演。  横浜市の小学校約20校を対象に、横浜にぎわい座にて平成17年から6月・10月頃に5日間程度ずつ公演。  平成27年からは東京都アーツカウンシル事業、平成28年からは新宿区・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした伝統文化理解教育で各10～15校程度公演を実施。  依頼公演としては、平成24年6月学習院初等科、平成28年10月江戸川区小岩小学校、平成29年柏市立松葉第一小学校、平成29年6月日大山形高等学校平成30年10月横須賀市立神明小学校、大森学園高等学校、令和元年7月慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部、令和3年7月前橋清陵高校等(記載のない年も多数実施しており、毎年継続している学校もあり実績を積んでおります)</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成22年03月 広島県立広島特別支援学校  平成22年11月 長崎市立桜が丘特別支援学校  平成25年02月 北海道帯広盲学校  平成28年01月 都立矢口特別支援学校  平成28年09月 南大沢学園特別支援学校  平成29年06月 都立江東特別支援学校  平成29年07月 都立品川特別支援学校  平成29年09月 南大沢学園特別支援学校  平成29年12月 葛飾区立保田しおさい学校  平成30年07月 都立品川特別支援学校  令和03年07月 中野区立第二中学校特別支援学級</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/vSLCez-lxCg">https://youtu.be/vSLCez-lxCg</a></p>
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID: PW:</p>

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	「寄席」を体験しよう！～演じるヒトも「よっ、日本一！」～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>演目:「牛ほめ」「初天神」など、子供たちにも理解しやすい演目を予定。          原作: 古典落語のほとんどの演目は原作者不明とされている。          脚本: この公演で演じられる古典落語は、江戸時代から継承される口演台本があるが、必ずしも全てが明文化されているわけではなく、ほとんどが師匠などからの口伝によるものである。          演出: 師匠から教わったものを基本として、演者それぞれ経験からしぐさや言い回しを工夫し、自ら演出する場合はほとんどである。          ※古典落語は口伝により自由に演じられることで大衆に広まってきた背景もあり、慣例から口演することに関して著作権は特にない。</p> <p>【プログラム構成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表児童生徒の発表3組</li> <li>2. 落語(前座)</li> <li>3. 落語(二ツ目) ～仲入り(休憩)～</li> <li>4. 色物(太神楽曲芸)</li> <li>5. 落語(真打)</li> </ol> <p>※上記演目以外(講談等)をご案内する場合がございます。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>■「牛ほめ」与太郎というちょっと調子外れな子供が父親に言われ、お小遣い目当てでおじさんの新築の家を褒めにいく。間違いながらも家を褒めるとおじさんから偉いねと言われ、調子に乗った与太郎は牛も褒めるが…          ■「初天神」男が天満宮へ参拝に行こうとしたところ、奥さんから頼まれ子供も連れていくことになった。以前、さんざん物をねだるので、今回はねだらないと約束して連れて行ったが…</p>		
演目選択理由	<p>「牛ほめ」に登場する与太郎は、ちょっと間抜けなところがあり失敗も多いが、いつもお気楽に振る舞い、どこか憎めない周囲に愛されるキャラクターです。「初天神」に登場する親子は、子供のほうが一枚上手で親も手こずりながらも可愛くてしかたがないという、ほのぼのとした親子です。いずれも、落語に出てくる典型的な人物で分かりやすく、表情やしぐさも面白く、オチも秀逸で楽しい内容です。          落語家の演じ分けや豊かな表現力を学ぶとともに、面白おかしい噺の中に、失敗しても明るくへこたれない強さや、親子のあたたかさを感じられる演目で、落語を聞き始める児童生徒向けにはとても良い演目です。          ※いずれも必ず公演でやるとは限りませんが、要望があれば対応いたします。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>■出囃子(太鼓)での共演、落語(小噺)代表児童生徒の出囃子の太鼓を演奏          出囃子(公演中、出演者が入替る際に演出する寄席囃子のこと。主に三味線と太鼓で成り立っている音楽)の太鼓演奏を代表児童生徒が行い、舞台上で当協会のお囃子(三味線演奏者)と共演し、公演を演出する。          ■落語(小噺)での共演          出演者の落語の前に、児童生徒の代表に短い落語(小噺)を高座で披露してもらい共演する。ほかに、高座返しやめくり返しなど普段前座がやっている役割を担うなど出演者の一員として共演する。          落語・出囃子代表児童生徒は、こちらで用意した着物・袴を着用します。</p>		
出演者	<p>○落語(前座) 三遊亭こと馬(予定)          ○落語(二ツ目) 春風亭昇羊(予定)          ○色物(曲芸) 丸一 小助・小時(予定)※1名か2名かどちらか          ○落語(真打) 春風亭柏枝(予定)          ○お囃子(三味線奏者) 1名</p> <p>出演者計 5～6名</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 6 名          スタッフ: 5 名          合計: 11 名</p>	運搬	<p>積載量: 1 t          車長: 4 m          台数: 2 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		— 時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～11時30分	13時30分～15時10分	10分	15時30分～17時	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					15日	
	11月	12月	1月	計	25日	
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安		6名(落語小唄3名、出囃子太鼓3名)	
			鑑賞人数目安		300名	



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出や  
がわかる写真)

※採択決定後、採  
択団体へ図面等詳  
細の提出をお願い  
します。

体育館ステージ上に舞台を設営します。各学校に合わせて調整可能ですので、広さに指定はありません。  
鑑賞する生徒児童は、普段慣れている鑑賞スタイル（椅子か直座り）で鑑賞します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	300名
<p style="text-align: center;"><b>ワークショップ 実施形態及び内容</b></p>	<p>標準:90分</p> <p>場所は多目的室など少しコンパクトで集中できる環境が適しているが、ない場合は体育館でも良い。 長机や学校にある適当な台を利用して簡易的な高座を設営し、本公演代表へのアドバイスとほか希望者には高座に上がって体験してもらうなど。</p> <p>=内容=  <b>■講師の紹介～落語解説</b>  「落語」ってどういうもの？など簡単に説明  1人で何人もの登場人物を演じ分けることや、2つの道具(扇子・手拭い)をいろいろな物に見立てて表現することなど。  <b>■小噺(短め) いくつか講師が実演。</b>  ・「隣の空き地に囲いができたってね～」「へえ～」  ・「お母ちゃん、鳩が何か落としていったよ」「ふ～ん」  <b>■所作 落語のしぐさ</b>  講師が扇子と手拭いで落語特有のしぐさを実演。  手紙を書いているところ、キセルを吸うところ、蕎麦やうどんを食べるとき、どのようにすると本当に食べているように見えるかなど。</p> <p>☆体験 みんなもその場で一緒に蕎麦を食べるなど、しぐさを真似してみよう！希望者や講師からの指名で何人か実際に高座に上がってしぐさや小噺(短め)を演じてみよう！</p> <p><b>■本公演代表(落語小噺)へのアドバイス等</b>  講師が本公演でやる小噺を一部実演して、代表3名に要点をアドバイスし、高座に上がって、少し感覚をつかんでもらう。</p> <p>～休憩(5分～10分)～ここまでおよそ45分</p> <p><b>■鳴り物 太鼓・出囃子など</b>  落語家が高座に上がるときに流れる音楽(出囃子)や始まり終わりの合図(太鼓)について解説  ・一番太鼓、二番太鼓、追い出し太鼓  ・効果音としての太鼓(水音、風音、幽霊の登場シーンで流れるドドロロ…といった音など)  ・出囃子の解説 お囃子(三味線奏者)の曲に合わせて、いくつか講師が太鼓を実演。  例えば 大漁節ならカラドンという太鼓の手 カラカ・ドンドン・カラカ・ドンドン</p> <p>☆体験 みんなもその場で出囃子の三味線に合わせてヒザを叩いて太鼓のリズムを覚えよう！  時間があれば、希望者には実際に三味線に合わせて出囃子の太鼓にチャレンジ！</p> <p><b>■本公演代表(出囃子太鼓)へのアドバイス</b>  太鼓代表には実際に三味線に合わせて太鼓を叩いてもらう。</p> <p><b>■時間があれば落語一席</b></p>		
<p style="text-align: center;"><b>ワークショップの ねらい</b></p>	<p>初めて落語を聞く・接する子供たちに、落語家がやっている工夫を知ること、本公演をより興味を持って集中して楽しんでもらう。</p> <p>落語家はたった1人、使う道具は扇子と手拭いだけで座布団の上でおしゃべりをする。登場人物を演じ分けるために声色や目線を変え、しぐさなどを工夫するなど様々な技を使って、いろいろな物語をつくりあげている。そういった工夫により、鑑賞する人たちは場面や人物を想像しやすくなり、落語を楽しむことができる。落語を通して、想像力を養うことは、人に物事を伝えるためにはどうすれば良いか自ずと考えることにもつながる。</p> <p>また実際に高座を体験すると人前で表現することの難しさ、伝わった時の喜びも味わうことができ、自信につながる。これらのことからコミュニケーション能力の向上にも期待するものである。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>その他ワークショップに 関する特記事項等</b></p>			